災強のすけっと × 黒松町内会

地域づくりパートナープロジェクト推進助成事業
協働実践助成

「防災アドベンチャー」を用いた地域の防災活動活性化事業

事業成果報告

NPO法人災強のすけっと
黒松町内会

01 事業実施団体について　事業実施団体の概要

災強のすけっと

団体の活動目的

防災イベントの企画や防災啓発活動を通して、地域住民の防災意識の向上を目指している。
これらを通じて地域の減災防災にも注力し、持続可能な防災まちづくりに寄与することで、災害に強い社会を創るためのお手伝いを行うことを目的としている。

これまでの取り組み

福室新田前町内会での
「防災アドベンチャー」の実施





災強バッグワークショップの実施

パンフレットの作成・配布



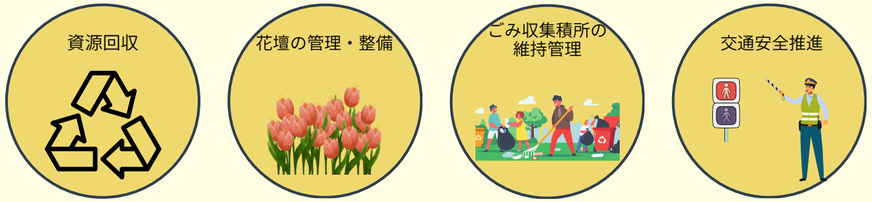
黒松町内会

団体の活動目的

会員相互の親睦をはかり、生活の向上と町内発展のために、会員共通の問題解決を図ることを目的としている。

これまでの取り組み

・町内の道路、交通、通信、衛生など生活環境にの改善に関する活動



・町内の防犯、防災のために必要な活動：防災関連事業の推進
・会員間の親睦を深める活動：各種お祭りの開催

02 令和7年度事業の実施内容　課題の把握

災強のすけっととして

現状・課題

地域防災に関するヒアリング

3.11を知らない世代への防災教育
町内会の防災活動の困難化

⇩

防災アドベンチャー開発

しかし…

無数にある町内会全体で災強のすけっとが
アドベンチャーを実施し続けることは

マンパワー　や　時間

の面で不可能に近い。

黒松町内会として

現状・課題



近年…
・子育て世代を中心にした新住民の流入が多い
・町内会役員を中心に防災プロジェクトを立ち上げた

⇩ しかし…

コロナ過で交流の機会が激減したことや役員の高齢化により
街歩きや防災訓練の実施に至れていなかった



非属人的かつ簡便な開催方法の検討として
実用的な手順書の作成

×

黒松町内会からはじめる
地域防災の活性化

×

若い世代を巻き込んんだ
黒松全域の町内会活動促進

町内会主体で簡便に防災アドベンチャーを実施できる体制構築を目指す

02 令和7年度事業の実施内容

令和7年度事業の目標

防災アドベンチャー in 黒松町内会

▲ 参加者数：小学生とその保護者 20名以上 ➡ 小学生7名＋保護者3名＝10名

※その他：地域住民3名、近隣の高校生ボランティア3名、J:COM、河北新報による取材

○ 参加者アンケート満足度：80%以上 ➡ 92%

○ 防災知識理解度：実施前後の比較で30%以上向上 ➡

全9問・4点満点の自記式アンケートにより評価
同一内容のアンケートをイベント前後の2回実施
平均点の差から理解度の向上を評価

事前平均：1.88点
事後平均：3.48点
理解度上昇幅：+1.60点（≒約+42%）



手順書の改訂

○ 黒松町内会からのフィードバック項目：10項目以上

➡ 準備段階で3項目＋事後アンケートで8項目＝11項目

▲ 改訂版手順書の完成：9月末まで ➡ 11月末に完成

※附帯意見に関して

『今後活動エリア拡大にあたり、その地域の町内会と協力しながら取り組むこと』

黒松町内会の協力を得て、黒松小学校での実施をはじめ、黒松連合町内会に限らず、八乙女地区を中心に活動エリア拡大を図る予定。

✕ 手順書の実用性評価：町内会役員による評価で80点以上 ➡ アンケート調査による点数化は行わず、フィードバックに関する打ち合わせの中で評価した。

次年度展開に向けて

▲ 黒松連合町内会での次年度事業への組み込み ➡ 現時点では、次年度の事業への組み込みは確定していない。

▲ 説明会参加団体数：10団体以上 ➡ 個人参加7名、取材2社(東北放送、共同通信)

▲ 次年度実施検討団体数：5団体以上 ➡ 2団体で前向きに検討。
内1団体では実施に向けて打ち合わせ実施予定あり

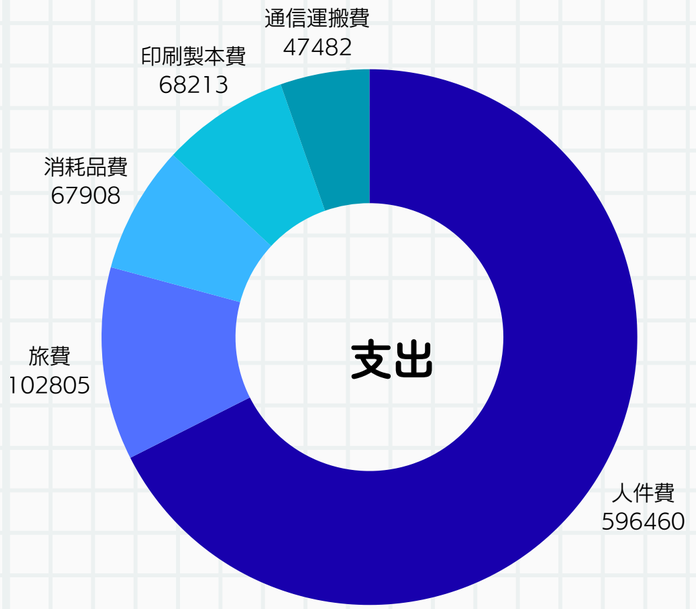
02 令和7年度事業の実施内容　事業の実施体制・スケジュール

	4月～6月 ※イベント実施は6月29日	7月～11月	12月～来3月
	防災アドベンチャー実施	手順書の改定	次年度展開に向けて
災強のすけっと	**黒松町内会が実施する防災アドベンチャーにアドバイザーとして介入**	**改訂作業** • フィードバックを受け、有用性を評価した • 実用的な手順書へと改訂した	<u>開催希望団体への説明会の実施</u> • 実施希望の団体からの防災アドベンチャーの内容に対する相談への対応
黒松町内会	防災アドベンチャー手順書（2025.3時点）を基に黒松町内会主導で **<u>防災アドベンチャー</u>**を実施した **自主防災組織を構成する町内会の小学生を対象にした防災イベント**	**改訂作業** • 町内会実施の運営経験をもとに手順書の有用性についてフィードバックを行った • 改定にあたって町内会での運営という観点から監修した	<u>開催希望団体への説明会の実施</u> • 実施希望の団体からの町内会での運営方法についての相談への対応

※まちづくりスポット仙台とも協働し、説明会イベント実施した

02 令和7年度事業の実施内容　使用経費





事業費総額　￥882,868円
- 仙台市助成金　￥794,000円
- 自己資金　￥88,868円

支出総額　￥882,868円
- 人件費　￥596,460円
- 旅費　￥102,805円
- 消耗品費　￥67,908円
- 印刷製本費　￥68,213円
- 通信運搬費　￥47,482円

03 令和7年度事業の取り組み

防災アドベンチャー実施

準備

対面ミーティング実施回数：3回
参加人数：黒松町内会約8名、災強のすけっと約4名

準備内容
防災マップをもとに地域の防災拠点について考えた。
子どもたちに伝えたいポインについてミッションの作成。
アドベンチャー当日の段取りを確認した。



当日

日時：2025年6月29日(日)
参加者：子ども7名、保護者3名
スタッフ：黒松町内会10名、災強のすけっと4名
その他：地域住民3名、近隣の高校生ボランティア3名
J:COM、河北新報による取材



準備内容
防災バッグワーク(災強のすけっと)、アドベンチャーの進行、ミッションポイントでのクイズの出題、防災拠点の説明等を行った。
まち歩きでは、子どもたちと一緒に地域を歩いた。



※審査会意見に関して
災強のすけっとでは、「防災アドベンチャー」運営チームの新規メンバー募集を行い、1月より1名の新メンバーが加わった。
また、黒松町内会では当初、防災サポーターのみでの運営を予定していたが、「興味のある方」が数名加わり、地域の裾野が広がった。
その中で、小学校での実施を希望する声も上がり、継続的な実施に向けた第一歩となった。

まちの防災リーダーのみなさま中心に積極的に話し合いを進めていただく事ができた。

アンケート 一部抜粋

スタッフ
- 今まで無関心だったことに気づけた。防災への関心が高まった。
- パッケージ化されていたら保護者の負担が少なく、PTAの活動にも取り込めるのではないか。
- 手順書に当日の動きの見える化が必要。

参加者
- 避難所の場所や、公衆電話の使い方を家族にも教えてあげたいと思った。
- 避難所に行けるようにがんばりたい
- 防災バッグを事前に準備したい

手順書改訂

実施者アンケートのをもとに災強のすけっとが手順書の改訂

改訂内容
① 手順書にアドベンチャーの目的や当日の流れを明記
② 大人が読んでも違和感がないように文末表現を配慮
③ 過去の事例を積極的に提示
④ 当日までにやらなくてはならないことを最初に提示
⑤ 目次、ページ番号を追加
⑥ 1から考えてもらう構成から、誘導が多めの構成に変更
⑦ 印刷して使用する資料のテンプレートを作成した
⑧ 余裕を持ったスケジュールで準備事項を記載
⑨ 手順書に出てくる用語の統一



03 令和7年度事業の取り組み

黒松町内会添削

改訂した手順書を、黒松町内会のみなさんとブラッシュアップ ➡ 再度手順書の改訂

添削内容

① 防災バッグのワークは実施するべきだと思うので何らかの形で記載が必要
② 過去の事例をすべての項目につける
③ 所要時間を具体化する
④ 全体的に読み手が「わかった気になる」ように、難しいことは書かない
⑤ 文字が多いのでAIを用いてイラスト作成を検討(特に全体像が文字だとわかりにくい)
⑥ 手順書内の参照にはページ数があるとわかりやすい



次年度展開に向けて

○ 次年度展開に向けた「防災アドベンチャー説明会」 2026年2月23日

まちづくりスポット仙台と協働し、災強のすけっとのコンテンツに関するワークショップを実施。
同日同会場で、「防災アドベンチャー説明会」を実施。

実施内容

- 午前中：災強バッグゲーム(防災アドベンチャー内のワーク)体験会　参加者 こども3名、大人8名
- 午後の部：防災アドベンチャー説明会　参加者 大人7名、東北放送さま、共同通信社さま





参加者の声 一部抜粋

- 町内会単位で実施するイベントとして、とても有意義だと感じる
- 自分の住む街での実施について前向きに検討したい
- 手順書の存在はイベント実施のハードルを下げるが、実際に実施するとなったときには不安が残る
- 町内会でのイベント実施にはマンパワーの問題があり、これを解決しないとイベント実施は難しいかもしれない

○ 次年度展開に向けた「防災アドベンチャー宣伝会」 2026年3月21日

新潟県の朱鷺メッセで実施された日本災害医学会学術集会のコラボイベントにブース出展し、立ち寄ってくださった方に防災アドベンチャーの説明や手順書の配布を実施。同時に災強バッグゲーム(防災アドベンチャー内のワーク)。 参加者は約100名ほど。



04 事業の成果と今後の展開　事業の成果

1団体ではできなかったこと

災強のすけっと

手順書を実際の運営現場で検証する機会がなく、外部団体の視点だけでは
「町内会にとって本当に使いやすいか」
を判断できなかった



黒松町内会

- コロナ禍で交流の機会が減少し役員の高齢化により、まち歩きや防災訓練の実施に至っていなかった
- 子ども向けの防災イベントを**ゼロから企画・運営**するのは難しかった



協働によって

1 黒松町内会が主体でイベントを実施



ミッションを作成し、当日は10名のスタッフで運営

2 災強のすけっとがアドバイザーとして伴走



3名のメンバーが参加し手順書の有用性を確認

3 運営経験が手順書の検証・改訂へ



町内会の運営スタッフからのフィードバック

町内会が「実施者」であると同時に、手順書の「評価者」にもなった

04 事業の成果と今後の展開　今後の展開

令和8度以降の展開と活動

手順書による防災活動の活発化

手順書を用いることで、防災アドベンチャーを「誰でも・どこでも」実施可能にする。
災強のすけっとは、より多くの地域で開催が実現するよう、サポート介入を行う。
オンラインでの実施相談や、当日のマンパワーの補填等...

運営準備の 伴走支援

やってみたいけど、手順書だけじゃ不安。
実際に話を聞きたい。



災強のすけっと
- **実施に関する相談**
- **準備段階での壁打ち**

プロジェクト運営メンバー「PJクルー」
- 防災アドベンチャーに関して深い理解があり、イベント実施が可能な情報を持っているメンバー
- 通年でプロジェクトに関わっているため複数回の相談にも応じることが可能



令和8年度の活動
- 伴走支援の体制の検討
- チラシを用いた防災アドベンチャーと手順書の広報

当日スタッフの マンパワーの補填

なんとか準備までできそうだけど、
当日スタッフが足りない



災強のすけっと
イベント当日の お手伝い

当日ボラメンバー「イベント手伝い隊」
- 災強のすけっとのイベントに単発で参加するメンバー(全国の学生が登録している)
- 防災アドベンチャーに深い理解はないが、幅広い地域に伺うことが可能

令和8年度の活動

3名のPJクルーと9名のイベント手伝い隊が加入
▶法人内での当日スタッフのマンパワーを確保